

第一回・小豆島おへんろ報告書

写真・文 G藤

巡 場 小豆島おへんろ

日 時 2019. 05. 14 (火) ~18日 (土) 4泊5日

参加者 G藤、K藤、W辺、S木新、S木綾、G谷、H、T内、M永=9名

バ ス ナガノ・バス

5月14日(火・晴) 三島ヨ一カ堂4:00—長泉—富士IC—淡路島—高松港14:01—フェリー
15:10—小豆島・土庄(どのしょう)16:20—総本院—岡田長栄堂(泊)17:
30

三島発4:00。途中、下土狩駅と富士ICに寄る。バスは順調に進み、予定の1時間前に高松港着。フェリーまで時間があった。若い衆の太鼓パフォーマンスを見学。Kが実際に叩いた。四国フェリーは、大洗フェリーと違い、出発10分前に手続き。15:10のフェリーで小豆島に渡る。瀬戸内の島影が美しい。土庄まで大小七つ島がある。



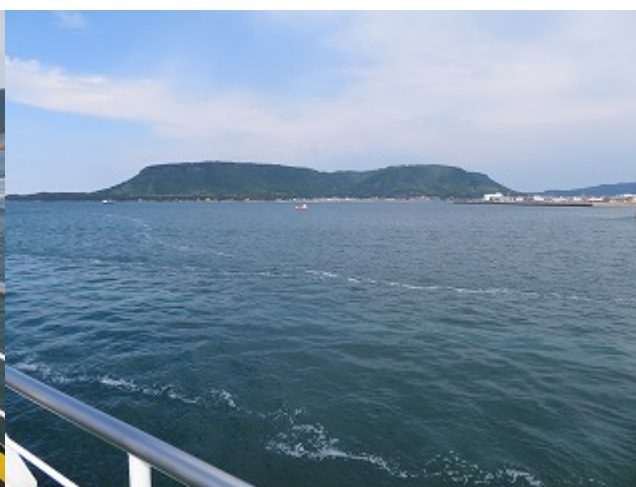
高松港



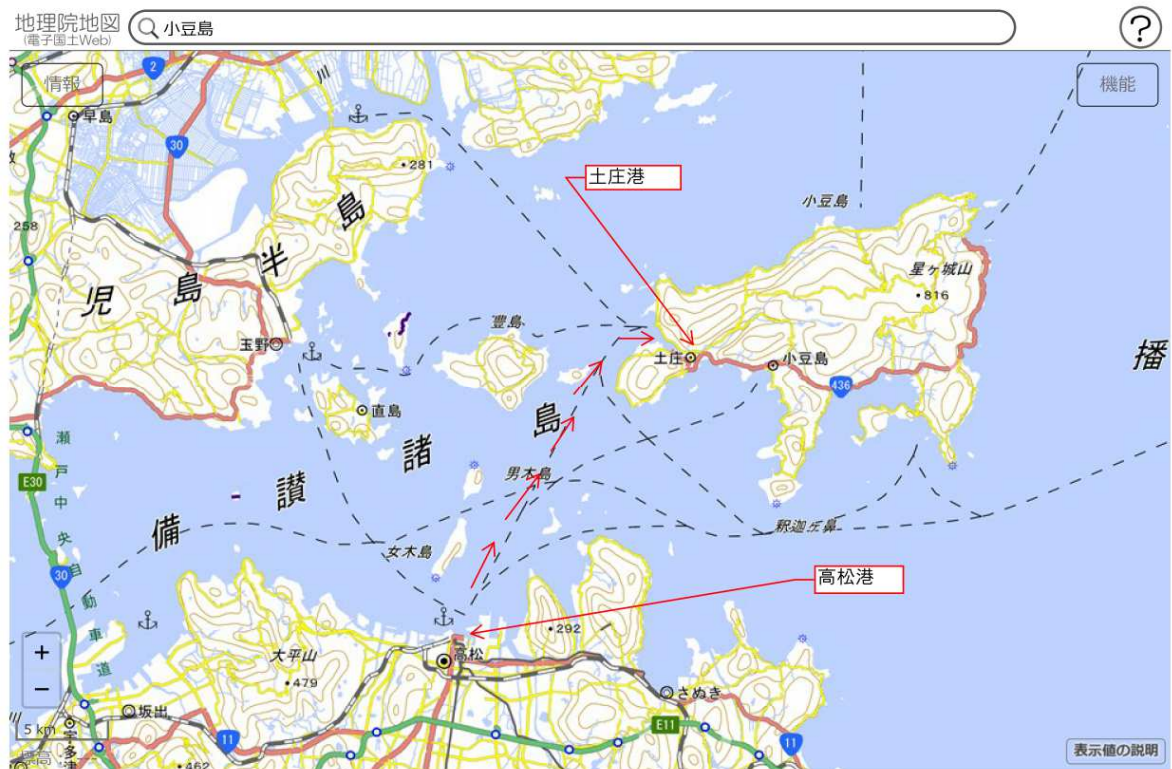
太鼓パフォーマンス



Mさん



瀬戸内の島影・屋島が見える



<http://maps.gsi.go.jp/>

2019/06/07

フェリーは快適だった。ちょっとした店があり、ビア・うどんを購入できる。東には、四国巡礼時、歩いた屋島が横たわっていた。

土庄（どのしょう）港着後、総本院に赴き、グッズを揃える。小豆島は、庵・堂が多く無住職のうえ連続しているので、ご朱印を一括捺印したご朱印帳を購入する。多くの方が購入した。総本院の係は若い坊様（？）が1名。そこに9名押しかけ、いっぺんに様々のことを尋ね、依頼したので、係は対応出来ず「とにかく、ちょっと私も話を聞いて下さい」と懇願された。この言葉は、その後、我々の間で流行語になった。（`艸`）

初日は渡島のみで歩きはなし。すぐ近くの「岡田長栄堂」で宿泊。明日からの英気を養った。



フェリー内



岡田長栄堂



夕食



コウヤマキの新緑

5月15日（水・晴） 岡田長栄堂発7:00—総本院発7:10—64番・松風庵7:33—58番・西光寺（奥の院）7:59—59番・甘露庵9:02—60番・江洞窟9:54—61番・浄土庵10:57~12:00（昼食）—62/63番・大乘殿、蓮華庵13:17—57番・浄源坊14:18—53/65番・本覚寺、光明庵14:30—66番・等空庵15:46—宿「旭屋旅館」16:30（泊）

バスで総本院まで行き、お勤めを済ませ、おへんろ開始。総本院は弘法大師を祭ってあった。最初の64番・松風庵の看板が左側にあって入口を過ぎでしまい戻った。記念すべき、小豆島で最初の庵だった。左手に赤い搭が見えた。近づくと、次の58番・西光寺だった。

大きく立派な寺だった。本堂の裏が花崗岩の小高い山で、そこに三重塔が立っていた。見晴らしは良い。記念写真を撮った。

今回感じたのは、寺は大きく立派。庵・堂は、小規模なものが多い。早朝だったが、本堂に寺の方が出て、一緒にお勤めを済ませた。穏やかなイ感じの方だった。寺の歴史を聞いたが、ハッキリしなかった。

59番・甘露庵に寄って、60番・江洞窟（ごうとうくつ）着。入り江の岩壁の中が本堂だった。ここも係の方がいた。聞けば、西光寺の傘下で係を勤めているという。ご本尊は、「弁財天女」で美しい天女の姿があった。本堂が海面と同じで、台風時は海水が入るそうです。

海岸線を進み、61番・浄土庵で昼食。ここは係の方はいなかった。午後は4・5km歩き62・63番の大乘殿・蓮華庵～57番・浄源坊～53・65番の本覚寺・光明庵に進んだ。本覚寺も立派な寺だった。住職がいて一緒にお勤めを終えた。境内に大きな搭があった。聞けば、インドの寺院にある搭でインドから職人が来て作ったそうだ。

特別な許可がないと作れない、といった。確かにこの手の搭は、他で見たことがなかった。

本覚寺を辞して、再び海岸線を歩く。海風が気持ち良かった。66番・等空庵着。小さな集落の庵で係はいなかった。今日はここでお終い。暑くて疲れた。歩数＝約3万歩。距離＝約19kmだった。



岡田長栄館



総本院



64番・松風庵



58番・西光寺「奥の院」



60番・江洞窟





61 番・浄土庵



53 番・本覚寺

5月16日(木)晴 旭屋旅館発 6:00—66番・等空庵発 6:50—68番・松林寺 6:59—67番・瑞雲堂 7:21—69番・瑠璃堂 7:42—峠越え—70番・長勝寺 8:20—71番・滝ノ宮堂 9:19—72番・奥の院「笠ヶ滝」の山頂社 10:04—奥の院 10:31—72番・龍湖寺(りょうこうじ・昼食) 10:53~12:04—73番・救世堂 12:11—大聖寺 12:40—76番・奥の院「三暁庵」 13:05—77番・歓喜寺 13:41—76番・金剛寺 14:08—番外・藤原寺 14:36—78番・雲胡寺 15:24—道の駅「大阪城残石記念公園」 15:48—バス—小部「かつや」泊 16:00

14日の宿は、土庄港すぐ近くの「岡田長栄堂」。名称は変わっているが、普通の旅館。この辺りでは老舗。宿のほかにお菓子製造業で、おみやげは自社製品が多い。

帰路時、寄ってみやげを購入した。82歳の大ババさまが店を仕切っている。入るとすぐ自社の「お茶と大師まんじゅう」をサッと出してくれた。大師まんじゅうは美味しかった。オリーブの製品も多かった。大枚をはたいて、W用の3000-のオイルを買ってしまった。(´艸`)

15日は、向かいの「旭屋旅館」。岡田で連泊予定だったが、奈良・薬師寺から信徒が大勢泊まるで変更した。結果的に良かった。夜、就寝時、何か賑やかと思ったら、岡田から信徒が夜のお勤めで「ドンつく、ドンつく」太鼓を叩きお勤めだった。宿は数mしか離れていないので音はよく通る。

ただ、建物・風呂・食事など全般的にこちらが新しく良い。料金は岡田=6500-+税、旭=6800-+税。みやげは、同じものが、こちらが高い報告があった。ロビーにピアノがあった。朝、出発時前、下手なピアノを弾いていると、同宿した高僧??!!みたいな先達みたいな方が来て、「なかなか良かったです。私はBSの駅ピアノが好きです」といって、立派な「お札を」置いていった。

その方がいうには、高いお札で一枚、10000-くらいするといったが本当か??!!裏には

大阪市・山田晃照と印があった。ネットで検索したが、特にヒットはなかった。車へんろの、お客らしき女性を数人連れていたので、先達の感じだった。



旭屋旅館



68 番・松林寺



67 番・瑞雲堂



70 番・長勝寺



72 番・龍湖寺・奥の院



76 番奥の院・三暁庵

バスで旭屋旅館を後にする。昨日の最終の等空庵から歩く。天気は良い。集落の細い路地を進む。

小高い所に68番・松林寺があった。お勤めをする。早朝だったが、寺の方（住職？）がいてお経の合間合間に鐘を鳴らしてくれた。

松林寺を辞し、67番・瑞雲堂着。ここも小高い所にあった。瀬戸海が一望できた。7:30だったが係の方がいた。写真・上の方だが、何か親しみを感じる方だった。そう「だるま大師」にソックリだった。太い眉毛が特徴的。係の方と般若心経を唱えた。ちょっと早い調子だった。途中、一か所寄って、峠を越える。下ると70番・長勝寺・大きな立派な寺だった。山門が鐘楼になっていた。記念写真を撮った。

巡路は山に向かっていた。険しい岩山だった。先は72番・滝湖寺（りょうこうじ）の奥の院「笠ヶ瀧」の更に奥の社だった。看板があつて、「観光・登山者は通行禁止」だった。なら、「おへんろ」はOKと解釈し上った。頂上は岩山で展望は素晴らしい。

岩山を下ると奥の院「笠ヶ瀧」。険しい岩場に手すりがあり、それを攀じ上る。下も岩場が続き、なかなか面白い。昼食はここで頂いた。午後は、73番・救世堂から75番・大聖寺。キレイな女性が対応。左手に巨大な観音像があった。先にある80番・観音寺で作ったという。ここは最終日に観光で寄った。

・・・スリランカの仏教聖地、キャンディに位置する佛歯寺（ダラダー・マーリガーワ寺院）から1985年に釈迦の犬歯を寄贈されたのをきっかけに、大観音像を建立。1994年に竣工、1995年に公開された。大観音像の高さは明らかにされていないが、約50~60mといわれる。胎内には本尊をはじめ、寄贈された約1万体の胎内仏が並ぶ。エレベーターで胎内を登ると、仏歯を納めた仏歯の間に至る。ここからは瀬戸内海や岡山港を望むことができる。大観音像以外に、目立った堂宇は置かれていない。・・・ネットから聞けば、大観音像は30億（？）掛ったという。しかし、最終的な話では、15億くらいとのこと。原資は、檀家・一般に一体15万の胎内仏を1万体制入してもらったという。それにしても大きな話である。観音様の見ている方向が話題になった。西の方角。やっぱりスリランカだろう。



大観音

大聖寺を辞して、76番奥の院・三暎庵着。オジサンがいて「サツマイモ」のお接待。温かい方だった。暑い日だったが、お茶が美味しかった。77番・歓喜寺から76番・金剛寺。途中で農家の

夫婦がいた。

イモのツルをぼちぼち植える準備をしていた。S木新ちゃんが「少し欲しい」といったら、奥さんはOKだったが、旦那は渋ってダメだった。この日は、頑張って番外・藤原寺から雲胡庵まで歩き、道の駅「大阪城残石記念公園」まで足を伸ばしバスで宿に向かった。しかし、このあと大事件が発生する。

ツアーで一番気を遣うのが宿泊場所。概ね初見の所が多い。情報はネットしかない。皆さんに安価で如何にイイところに泊まって貰うか難しい。お金を出せば豪華な宿はいくらでもある。しかし、探せば安く温かい宿もある。四国はそんな宿が多い。

宿が決まったら予約をする。間違えていけないのは日時。従って前予約・中押し・最終確認と3回確かめる。だから今まで何十年もこんなことをやっているが、トラブルはなかった。イヤ、3回も確認していればないはずである……。だったが、そうでなかった??!!



かつや旅館



大部付近

歩き終え、道の駅からバスの乗り、今日の宿に向かった。宿は、小部（こべ）の「はまや」。私の計画書が「はまや」になっていた。（実際は、電話番号も宿名も「かつや」だった）バスから携帯する。

私　　もしもし、「はまや」さんですか??

相手　違います「はまや」ではありません。

私　　えええ～、「はまや」でない??

何方ですか??「かつや」です。分かりました。

私　　「はまや」に携帯する。

静岡のゴトーですが、「今日、予約してますね」

相手　「はまや」ですが、予約は伺っていません。

私　　えええ～、聞いていない??おかしいな。

私は顔面蒼白。心臓はドキドキだった。もし今日、宿がなかったらどうしよう。皆を路頭に迷わせる訳にいかない。何よりも私の沽券に関わる。

サポーターのKは「私たちは何処でも（野宿）でも、大丈夫だよ」と剛毅なことをいつてくれたが、年配者はそうもいかない。気を取り直して、もう一度「はまや」に携帯。（実際は「かつや」の電

話番号)

- 私 「静岡のゴトーですが、今日の他の予約は??」
相手 「名古屋の方が10名入っています」
私 「名古屋??!! その方の携帯は何番ですか??」
相手 「090-8956~0000です」
私 「えええ~、それって私の番号です!!」(笑い)

今回のトラブルは、まず、

1. 私が計画書で「宿名」を間違えた。
2. 「かつや」が私の予約を静岡のゴトーでなく、名古屋の〇〇と間違えた。

それにしても、「かつや」も気が利かない。宿の古さからして長年この仕事をやっていると思うが「勘」で分からないモノか?? 私も何故か「宿名」を間違えた。ま、旅(トラベル)は、「トラブル」というが、正にその通り。

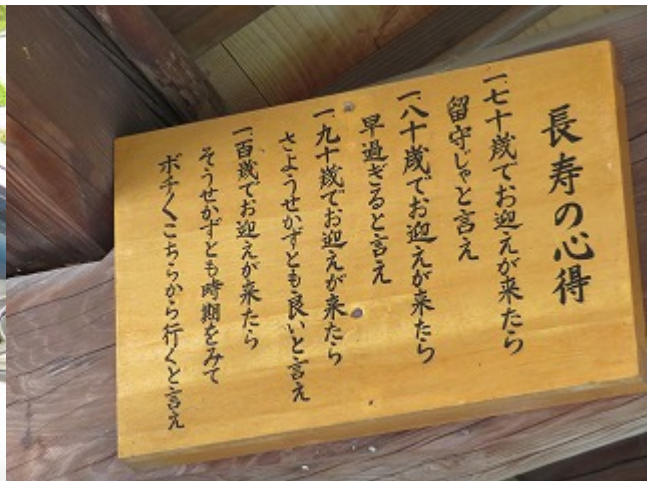
しかし、宿は凄くよかった。瀬戸内海を望む展望風呂は今回の宿でサイコーだった。食事もまあまあ。何よりも、旅人を思った「朝食時、お弁当を無料で作ってもOK」は有難かった。おまけに朝風呂時、女将の携帯を拾い感謝された。やっぱり「ご縁」があったのか??!!

5月17日(金)晴 小部「かつや」一バス一道の駅発 6:57-79番・薬師庵 7:43-80番・観音寺 8:17~49(うどんのお接待)-81番・恵門ノ滝 10:37~11:57(昼食)-山下り-小部-峠越え-吉田ダムサイト 14:37-82番・吉田庵 14:05-峠越え 83番・福田庵 16:18-84番・雲海寺、85番・本地庵 16:36-福田「ちぐさ旅館」17:15(泊)

歩きは最終日。宿からバスで道の駅に戻り出発。天気は良い。

風があり案外涼しい。この日の行程は、峠越えが2回あり、なかなか厳しい。

海岸線を歩く。程なく反対から来た車が止まった。僧侶だった。「何処に行きますか」「薬師庵から観音寺です」と答えると、「うちの観音寺で、うどんのお接待をします」と、携帯で人数を寺に





80番・観音寺



うどん接待

伝えた。僧侶は、80番・観音寺の方だった。

「へ～、こんなお接待は、四国でもなかった」と痛く感心。観音寺に到着しお勤め後、大広間でお接待があった。うどんも寺で作っているそうだ。昼食までまだ早かったので、私はいただかなかった。Mさんもトイレに行っていて、時間がなくて食べられなかった。Mさんには申し訳なかった。

昨夜の宿「かつや旅館」先で右折し、山に向かう。次の81番・恵門の滝は、標高約400m。ほぼ海拔0mから上るので厳しい。道路が狭くバスも入れない。寺は凝灰岩の洞穴内にあった。寺まで階段があるが、鎖が下がった岩場を40m上るコースもあった。後で聞いたら、小柄なWさんも上ったと聞き驚いた。

不動明王が祭ってあった。あまり愛想の良くない若い坊様がいた。

毎日、車で上ってくるという。前寺の観音寺の末寺だから観音寺の方だろう。赤い建屋は清水の舞台な感じで岩場からせり出していた。外観はなかなか美しい。紅葉のシーズンは見事だろう。階段を下り、ここで昼食にした。



81番・恵門ノ滝



本堂は岩窟の中

午後は一気に海拔0mまで下り、吉田ダムに向う。再び標高約350mの峠越え。

ただ、比較的路は歩き易かった。下りもパイプの手すりがあり有難い。手すりに手を添えて下ると

安定し下り易い。眼下に吉田ダムが見えた。湧水で貯水量は少なかった。
小豆島にはダムがニッあるという。ダムがない時代は、湧水で生活は大変だったという。
ちなみに水は美味しくなかった。生水はなるべく避けた方がよい。長泉は生水が美味しいが・・・。



吉田ダム



モニュメント

吉田ダムに降りた。ダムサイトに大きなモニュメントがある。題名は「恵」。
一つの花崗岩で作られた、高さ10mほどのもの。作者は、京都市の高松 清氏。有名な方のように
だ。他、対岸に水に浮き指で回せる「石の地球儀」があるようだが、対岸には行かなかった。
小豆島は花崗岩の島。いたるところに花崗岩の立派な石垣が見られる。また、ロッククライミング
も有名で本土からクライマーが多く訪れる。

ダム高さは75m。長い階段を下って吉田川に降りる。その先に吉田庵がある。お勤め後、二回目
(ピーク的には三回目)の峠越え。時間も遅く皆さんバテバテ。気力を振り絞り峠越え。越えれば
福田港が見渡せた。

下れば集落の中のヒッソリとした83番・福田庵。こんな庵がなかなかステキ。
少し山道で、84番・雲海寺と85番・本地堂。ここで今回の計画書通り、全て歩き切った。時間
は17時01分。皆さん、よく頑張った。



最後の峠越え

雲海寺は高台にある大きく立派な寺だった。何故か多くの方が墓参り??墓掃除??に来ていた。お墓は、こちらのもので違いシンプルでサッパリしている。ゴテゴテしてなくイイ。境内には何と「井戸」があった。実際、墓に使う水は、井戸から汲んで使っていた。また、ピラミッド型の無縁墓もあった。これは、墓を作り替えたり、島を出て行く人が役目を終えた墓を積み上げたモノ。島では普通らしいが、静岡では見られない。



境内の井戸



無縁墓ピラミッド

寺を辞し、バスで宿に向かった。今度は、宿の予約は問題なかった。(´艸`)民宿はジジ・ババさま二人でやっている民宿だった。

宿は「ちぐさ旅館」。名前は、旅館だが民宿とっていいだろう。福田湾がすぐで部屋から潮騒が聞こえた。風呂に入り夕食。港が近いだけに、魚料理が超豪華だった。

大きなウマズラの刺身・キモがたくさん並んだ。女将に言わせると、「ここは、魚以外、何もないからね～」だった。兎に角、魚は食べきれなかった。残してしまい申し訳なかった。残った刺身は朝、醤油漬けで出してくれた。



刺身が凄い

5月18日(土)曇・強風

最終日で帰るだけだった。例によって「朝寝・朝湯・朝酒」だった。

最終日に天気が崩れた。降雨こそないが、黒雲が流れ強風だった。少し観光で「寒霞溪（かんかけい）」にバスで上った。山頂は物凄い風だった。俯瞰すると、奇岩・巨岩が林立していた。激しい火山で出来た岩だった。先日上った、恵門の滝は、山頂下にある。

気になっていた「大観音像」にも寄った。入場料が500円。中は様々なモニュメントがあった。広間で坊様と般若心経のお勤め。「十句観音経」もやったが、いつもやっているのので、躊躇することなく出来た。

恐らく観音経をサッと出来る方は多くないだろう。ああ、これも「修行」のたまものでしょう。坊様は、元サラリーマンで焼津にいたことがあると聞いた。しばし、静岡の話題で盛り上がった。感じの良い方だった。頂上部に上り、のぞき穴から展望だったが、テラスでないの、イマイチだった。

再び岡田長栄堂に戻り買い物。前述の大バアさまが仕切っている。サービスは良い。フェリーは、予定より早いのに乗った。皆さん早くも空腹で、船内で「うどん」を食べた。

小豆島を愛でながら高松港着。無事、全行程を終えて何よりだった。皆さんもよく歩きました。頑張りました。新しい発見・経験・体験もありました。日本は広い。まだまだ、行きたいところは多い。また、次回、楽しみましょう。合掌。

(了)



小豆島 八十四番・雲海寺